

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成22年9月29日(水) 公開授業1
児童 2年2組(男子17名 女子9名 計26名)
指導者 佐藤 健治
日時 平成22年9月29日(水) 公開授業2
児童 2年1組(男子17名 女子10名 計27名)
指導者 田村 望
ひかりサポート 小野里 知子

1 単元名 ようすや気持ちを考えて読もう

2 教材名 「お手紙」 (アーノルド＝ローベル作・絵 三木 卓訳)

副教材 「春が来た」 (アーノルド＝ローベル作・絵 三木 卓訳)

3 単元の指導目標

【国語への関心・意欲・態度】

登場人物の特徴をつかみ、楽しく音読しようとする。

【読むこと】

場面の様子について、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読むことができる。 □
(読むこと ウ)

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

文の中における主語と述語との関係に注意して読むことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ))

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
登場人物の特徴をつかみ、楽しく音読しようとしている。	場面の様子について、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読んでいる。	文の中における主語と述語との関係に注意して読んでいる。

5 指導にあたって

(1) 児童について

2年生になって最初の単元「みんなでよう」(教材名「ふきのとう」)では、楽しい会話を生かした言語活動として音読発表会を位置付け、好きな場面や会話を選び、その様子について想像したことを音読に表現する能力を育成してきた。

「本と友だちになろう」(教材名「スイミー」「黄色いバケツ」)では、スイミーがしたこと(主語と述語)にサイドラインを引くことで「登場人物の行動を読む力」を育成してきた。また、大事な言葉の意味を考えながら、絵に表したり、行動の意味を考えさせたりすることで「想像を広げながら読む力」を育成してきた。

さらに、関連教材「黄色いバケツ」では、想像したことを全員に書き込ませてから話し合い、読みを深めてきた。

(2) 単元について

本単元で身につけさせたい能力は、「場面の様子について、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読むこと」である。「登場人物の行動を読む力」については、登場人物ごとに色分けしたサイドラインを主語と述語に引かせ、確かめ合う。また、誰の会話文か判断する力を、会話文やその前後の文から読み取ることで身につけさせることができると考える。「想像を広げながら読む力」については、様子や気もちがさらによくわかるように、一人一人が、教材文に言葉を書き込み、全体で話し合うことで身につけさせることができると考える。

本教材「お手紙」は、一度も手紙をもらったことのないがまくんと、何とかがまくんを喜ばせてあげようとするかえるくんと心温まる友情の物語である。本教材は、会話文が多いことが特徴である。また、地の文は、主語と述語がとらえやすく、だれが何をしたのか、どんなことを言ったのか考えさせるのに適した教材である。

副教材「春が来た」は、「お手紙」と一緒に「ふたりはともだち」という作品集に収められている。登場人物、会話文が多い点、主語と述語がとらえやすい点が共通している。そのため、「お手紙」で習得した「登場人物の行動を読む力」「想像を広げながら読む力」を活用するのに適した教材だと考える。

本単元では「登場人物の行動を読む力」「想像を広げながら読む力」を身に付けさせるために「気もちがよくつたわる」ことをねらいとした音読発表会を行う。単元の見通しを持つことで、第二次の読み取りに目的意識が生まれ、意欲的に学習に取り組むようになると考える。また、第三次で、アーノルド＝ローベルの他の作品「春が来た」を読み取り、音読発表会を行うことで、「登場人物の行動を読む力」「想像を広げながら読む力」が、さらに高まり、児童にも習得できたことが実感できると考える。

(3) 指導について

第一次では、学習発表会の劇に向けた学習であることを話しながら、「音読発表会をしよう」というゴールを確認し意識づけと意欲づけを図る。学習計画を立てる中で、「だれが何をしたのか、言ったのか、考えよう。」「気もちがさらによくつたわるように、書きこみをして話し合おう。」というめあてを確認する。

第二次のはじめに、がまくん、かえるくんのしたことには、サイドラインを引き、話したことにはシールを貼り、「登場人物の行動を読む力」を育てる。

第二次の各時間において、行動や会話から様子を想像し、想像したことを教科書に書き込ませ、「音読→書き込み→話し合い→まとめの音読」を繰り返し、「想像を広げながら読む力」を育てる。

第三次では、第二次で育てた「登場人物の行動を読む力」「想像を広げながら読む力」を活用して、アーノルド＝ローベルの他の作品「春が来た」を読み取らせ、音読発表会を行う。

6 指導計画(全18時間)

過程	時間	主な学習活動	具体的評価規準【B】 (評価方法)
一次 3時間	1	<p>【学習の見通しを持つ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題名を読み、手紙を書いたりもらったりした経験を話し合う。「お手紙」を読み、感想を発表し合う。 	<p>【関】「お手紙」に興味を持ち、初発の感想を持っている。 (感想、ノート)</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習計画を立てる。 「音読はっぴょう会をしよう」 →だれが、なにをしたのか。言ったのか、考えよう。 →気もちがさらによくつたわるように、書きこみをして話し合おう。 グループごとに、すべての場面の録音をする。 ・ アーノルド＝ローベルの他の作品を紹介し、読書への意欲を高める。 新出漢字や語句の理解 	<p>【関】 学習課題を理解し、音読発表会に意欲を持っている。(観察)</p>
二次 10時間	1	<p>【会話文の読み方についての書き込みと話し合いを通して、場面の様子について、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読みとる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全文を読んで、主語と述語、だれの会話文であるかを確かめる。 挿絵を使って、あらすじをつかむ。 	<p>【読】登場人物の行動にサイドラインを引いている。だれの会話文か考えて、がまくん、かえるくんのシールを貼っている。(教科書にサイドライン・シール)</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1の場面(P4～P7L2) 手紙をもらえないがまくんの様子を会話や行動から読み取る。 がまくんの様子が表れるように音読する。 	<p>【読】会話文の読み方を想像して書き込みをしている。 (教科書への書き込み)</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2の場面(P7L3～P8) かえるくんの行動の意味を読み取る。 かえるくんの様子が表れるように音読する。 	<p>【読】様子が表れるように音読している。 (観察・テープ) (1～4の場面)</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3の場面(P9～P12L5) 二人の行動を比べ、場面の様子について、想像を広げながら読み取る。 二人の様子が表れるように音読する。 	
	2 本時1/2 2-2。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4の場面(P12L6～P15) 手紙を待つ二人の様子を読み取る。 二人の様子が表れるように音読する。 	
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一文で書く。 	<p>【読】中心人物の行動の変化とその理由をとらえ、一文で書いている。(ノート)</p>

三 次 5 時 間		【第二次で習得した「登場人物の行動を読む力」「想像を広げながら読む力」を活用して、アーノルド＝ローベルの他の作品「春が来た」を読み取り、音読発表会を行う】	
	2	<ul style="list-style-type: none"> 全文を読み、感想を発表し合う。 だれの会話文であるかを確認する。 挿絵を使って、あらすじをつかむ。 	【読】 だれの会話文か考えて、シールを貼っている。(プリント)
	1 本時 2-1。	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子について、二人の会話と行動から、想像を広げながら読み取る。 	【読】 会話文の読み方を想像して書き込みをしている。(教科書)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 3人グループで選んだ場面の読み方について相談し、練習する。 グループごとに発表を聞き合う。(音読発表会) 	【読】 様子が表れるように音読している。(観察)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 一文で書く。 	【読】 中心人物の行動の変化とその理由をとらえ、一文で書いている。(ノート)

7 本時の指導 (16/18時間)

(1) 研究との関わり

第二次で習得した力を活用して「春が来た」を読み、話し合い、まとめの音読をすることで、「想像を広げながら読む力」がさらに高まり、習得できたことが実感できると考えた。

(2) ねらい

場面の様子について、がまくんやかえるくんの会話と行動から、想像を広げながら読むことができる。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	教師の支援と評価 (○は主発問 ・は支援)
つかむ 3分	1 本時の学習の見通しを持つ。 2 本時の課題を確認する。	・がまくんやかえるくんの会話と行動に着目することを確認させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ふたりのようすがつたわるような会話文の読み方を考えよう。 </div>		
ふかめる 40分	3 二人の会話の読み方を想像して書きこむ。 「おきなよ。春が来たんだよ。」 「ぼくここにいないよ。」 「それじゃそれまで、ぼくさびしいよ。」 「おやおや5月だ。」 4 二人の会話の読み方を話し合う。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ~のところは~と入れました。 それは、~くんは~だからです。 </div>	○二人のしたことや話したことから、二人の様子を想像し、どのように読んだらいいか、書き込みをしましょう。 ・指定した箇所以外にも書きこみをして良いことを話す。 ・行動の意味についても考えさせる。 ・一つの会話文への書き込みを続けて発表させ、話し合いを通して読み深めさせる。 ・読み深めたことが表れるように読みを工夫させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 具体的評価規準 A . . . 場面の様子を想像し、指定した箇所以外にも、読み方を書き込んでいる。 B . . . 場面の様子を想像し、読み方を書き込んでいる。 Cへの支援 . . . 「ぼくここにいないよ。」に限定し、挿絵やを見ながら書かせる。 </div>		
	5 まとめの音読をする。	・読み深めたことが表れるように意識させる。
まとめる 2分	6 次時の予告をする。	・読み深めたことが表れるように練習してから音読発表会をすることを伝える。

第2学年 単元構想表

- 1 **単元名** ようすや気もちを考えて読もう
- 2 **教材名** 「お手紙」 (アーノルド＝ローベル作・絵 三木 卓訳)
副教材 「春が来た」 (アーノルド＝ローベル作・絵 三木 卓訳)
- 3 **目 標** 場面の様子について、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読むことができる。

4 つけたい力

(1) 児童の実態

- ・ 主語と述語にサイドラインを引くことができる。
- ・ 想像したことを書くことに慣れてきたが、書くことができない子もいる。

(2) つけたい力

- ・ 登場人物の行動を読む力
- ・ 想像を広げながら読む力（「読むこと」の指導事項・・・ウ）

5 言語活動

「登場人物の行動を読む力」「想像を広げながら読む力」を活用して、アーノルド＝ローベルの他の作品「春が来た」を読み取らせる。「気もちがよくつたわる」ことをねらいとした音読発表会を行う。

6 自力読みの観点

[これまでに身に付けた自力読みの観点]

- ・ 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて、正しく、はっきりと（句読点や会話文に気をつけて）音読する。
- ・ 場面の様子と登場人物の行動を読む。・・・登場人物の行動にサイドラインを引く。

[本単元で重点的に扱う自力読みの観点]

- ・ 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて、正しく、はっきりと（句読点や会話文に気をつけて）音読する。・・・読み取った登場人物の気持ちが表れるように音読する。
- ・ 場面の様子と登場人物の行動を読む。・・・会話文の読み方や行動の意味を考えさせる。